

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立上野高等学校全日制課程)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	日本一、生徒・先生がイキイキしている学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<p><めざす生徒像> 伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける生徒</p> <p><育みたい資質・能力></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決力…自ら課題を発見し、その解決に向けて自分の考えを深めたり広げたりしながら、論理的に考える力 ○ 行動力…自分がとるべき行動を理解し、自分の考えに基づき周囲を巻き込んで行動する力 ○ 挑戦心…自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 ・ 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒:学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○ 保護者:国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○ 卒業生・地域住民:地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○ 大学:学力と意欲の高い生徒の育成 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA:進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○ 地域住民:情報発信と地域貢献 ○ 小中学校:地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○ 地域の関係機関:地域人材の輩出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA:教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○ 地域住民:教育活動への理解・協力 ○ 小中学校:指導上必要な情報提供等 ○ 地域の関係機関:キャリア教育充実のための協働態勢
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の授業満足度が目標に達していない学年があるので、なぜ満足度が前年と比べて下がっているのかなどを分析し、改善に努めてほしい。 ○ 自己肯定感を高めることは大切だと思うので、継続して取り組んでほしい。今後は、教科指導(授業)でも自己肯定感を高める方策を検討してほしい。 ○ 生徒満足度調査の数字は高いので、多くの生徒が満足した学校生活を過ごしていると思う。一方で、満足していない生徒も一部いると思うので、そういった生徒に寄り添いながら指導してほしい。 ○ 生徒が挑戦したり、考えたり、地域と接点を持ったりするなど、生徒が自分を磨く機会が多いのが良いので継続してほしい。また、先生方が教育相談的な手法等も効果的に活用して、生徒の自己肯定感を高めてほしい。 	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業満足度調査によると満足度が90%以上の授業が多い。一方、満足度が90%を下回る授業もあることから継続して授業改善に取り組みたい。 ○ 授業でICTを活用している教員の割合は100%となった。今後は非常勤講師の先生方の活用について検討していく必要がある。 ○ 探究活動について、2年生では探究S・F・Rの3つに分かれるなど、運用面では苦労したところもあったが、学年団の工夫やICTを活用した発表に向けて推進することで、よりよい学習活動が実践できた。次年度以降は学際探究科となり、一層探究学習が重要になることから、より充実した運営体制を構築する必要がある。 ○ 共通テストへの対応が一段落し、第一志望への合格力を高める指導を一層拡充する。進学型インターンシップへの参加者が増え、生徒が様々な刺激を受ける機会が増えてきた。理数科では東京キャリアアップツアー等の取組を継続し、刺激から学問への好奇心を育む取組を増やしていきたい。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育については、人権LHRやさまざまな機会をとおして「教師がみずから語り掛ける」ことに取り組んだ結果、生徒の重要度満足度アンケートの評価は高く、今後も、生徒と教師の関係を丁寧に紡ぐ言葉がけの意識化に取り組んでいきたい。 ○ 文化祭を本校保護者に加え、中学3年生とその保護者にも公開した。今後も保護者や中学生、地域の方の参加など、オープンな学校として中学生や地域へPRし続ける必要がある。 ○ 学校情報の発信については、本年度から公式Instagramを開設し、可能な限り最新の情報を発信するよう取り組んだ。フォロワー数も増えてきたが、引き続きさまざまな機会をとおして周知していきたい。 ○ 過重労働緩和・総勤務時間縮減については、定時退校日に定時で退校できた職員の数や、会議の時間減少等は改善できたが、まだまだ課題は多い。次年度に向けて、改めて管理職から周知するとともに、時間外労働者数の減少に努めていきたい。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「課題解決力」や「行動力」、「挑戦心」を向上させる探究学習を推進 ○ 生徒一人ひとりが自己目標を実現できる教育活動を推進 ○ 「思考力・判断力・表現力等」を育むため、アウトプットを重視した学習活動を推進
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保し、本校の入学を希望する中学生・保護者が増えるよう、探究に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、いじめを許さない迅速な対応等の取組を推進 ○ 本校の教職員が生徒の成長を実感し、イキイキと勤務できるよう、活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みの構築や、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組等を推進

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校を志望する動機が明確で、入学後は様々な場面でリーダーとなる資質・意欲を持っている者 ○ 学習意欲が旺盛で、本校の学習内容及び教育活動への興味・関心が高く、優れた思考力・判断力・表現力を身につけ、主体的に学ぶことができる者 ○ 高い学力を有し、将来に対するビジョンを持っている者
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考												
1 生徒が 学びがいを 実感する学 校	<p>○全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間による研究授業・授業評価の実施 ・より深い学びを主体的に行えるように、すべての授業で ICT の活用を進める。 ・生徒による授業評価年2回実施 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間による研究授業・授業評価を年2回実施 ・授業改善研修を年3回実施 ・教科ごとに ICT 活用をテーマに計画書を作成するとともに、事例報告を共有 ・ICT を活用し、不登校生徒への ONLINE 授業を実施 ・生徒による授業評価を7月と12月の2回実施 	◎												
	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業満足度(「とても満足」と「満足」の計、以下同じ)90%以上 ・協働学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 80% 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次93.4%、2学年89.3%、3学年91.8% ・100% 	※												
	<p>○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH の事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」を ICT も活用し系統的に実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」の授業満足度 80% 以上 ・国公立大学合格者数、各クラス 10 人程度 ・週末の学習支援の実施。3年土曜講座7回 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療セミナー(県教委主催) 2年生6名参加 ・一日看護体験(三重看護協会主催) 3年生11名、2年生13名参加 ・歯科衛生士インターンシップ(県教委主催) 2年生1名参加 <p>【成果】</p> <p>・生徒満足度 12 月アンケート</p> <table border="1" data-bbox="845 1523 1332 1624"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年次</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理数科</td> <td>99%</td> <td>92%</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>普通科</td> <td>92%</td> <td>80%</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者合計63人。 ・土曜講座 3年生7回、2年生2回開催 		1年次	2年生	3年生	理数科	99%	92%	68%	普通科	92%	80%	81%	
		1年次	2年生	3年生											
理数科	99%	92%	68%												
普通科	92%	80%	81%												
<p>○スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な内容を含んだ授業を各科目の 90%以上で実施 	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な授業の実施科目割合 100% ・教科横断的な授業「学びのクロス」を実施し、生徒が自身の興味・関心の幅を広げる面白さを体験する機会とした。 														

	<p>・高大連携先の開拓と地元企業、卒業生、他校SSHとの協力体制の推進 ・「みらい探究 R」の授業運営方法の確立と全教員での指導体制の構築</p> <p>【成果指標】 ・生徒の各活動満足度各学年 90%以上</p>	<p>・同志社大学と連携し、歴史的価値のあるものをデジタルアーカイブ化することで探究活動を行った。 ・理数科合宿や課題研究発表会、東京キャリアアップツアーなどの理数科行事を通して本校理数科卒業生との交流会を実施 ・本校卒業生が勤務する東京の企業を訪問する東京キャリアアップツアーを実施 ・皇學館大学の学生をメンターとして招いた「みらい探究」の指導・助言 ・地元企業である中外医薬への企業訪問と実験実習を実施 ・三重大学を中心とした外部講師による講演会の実施 理数科の学級増を見据えた運営体制の構築として、「ゼミ制」導入に向けた構成案を策定し、指導体制の再編に着手した。 ・課題研究を理科の教員が全員担当したが、全教員による一貫した指導体制の確立については、次年度の最重点課題として継続する。</p> <p>【成果】 ・前項目と共通</p>	
--	--	---	--

改善課題

○授業満足度調査によると満足度が 90%以上の授業が多い。一方、満足度が90%を下回る授業もあることから継続して授業改善に取り組みたい。

○探究活動については、今年度より理数科 1 年次が 1 学級増の 2 学級体制となった。今後の規模拡大を見据え、「ゼミ制」の導入など、全校的な取り組みとして、より効果的な指導法を実践していく必要がある。

○1 年次に「学際探究科」が新設され、より探究学習に特化した学科となった。本年度は、学校設定科目「UQ」の開始に加え、教科横断型授業の「学びのクロス」やフィールドワークとして「信州探究ツアー」を実施し、活動の方向性を示すことができた。次年度は、これらの実績を踏まえ、より充実した指導体制を構築する必要がある。

○生徒・保護者の求める進路情報は年々高度化・多様化しており、現状の提供体制には改善の余地がある。こうした変化に柔軟に対応するためにも、教職員が持つ進路指導の知見を組織的に深めていくことが重要である。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
	<p>○人権教育を積極的に推進する。</p> <p>【活動指標】 ・人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ・新着任者および本校勤務2年目の教職員が年2回実施するフィールドワークに1回以上参加 ・全教職員が年1回以上人権に関わる研修や</p>	<p>【活動】 ・人権 LHR に向けた事前学習・事後学習を含めしっかり協議を行って取りくめた。1年次は2/18(水)、2 学年は 11/5(水)、3 学年は6/18(水)に公開人権LHRを実施 ・全体研修は4/15(火)に、小グループ研修は 4～6月に 2 回実施。 ・フィールドワークは 5/14(水)、5/15(木)</p>	

<p>2 保護者 地域が頼り がいを実感 する学校</p>	<p>学習会に参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生との人権交流会を年2校以上実施</p> <p>【成果指標】 ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加</p> <p>○生徒理解を深め、生徒の自己肯定感を高める指導を推進する。</p> <p>【活動指標】 ・指導強化月間を年3回設け、あいさつ・身だしなみ、時間厳守、規律・安全指導を実施する。 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施</p>	<p>に実施。昨年度に続き、転任・新任が参加 ・校内においても指導案検討会を実施。 ・大山田小学校と人権交流会を実施 (12/9(火))</p> <p>【成果】 ・人権サークルでは、3年生6名、2年生2名、1年生7名が、積極的に活動に取り組み、小学校との人権交流会では人権問題について自身の思いなどを発表した。 ・「友人や家族など日常の人間関係の中で、学びを活かしている」と回答した3年生の割合：78%</p> <p>【活動】 ・1学期2学期3学期朝の登校指導を2日～3日実施。身だしなみ、あいさつの奨励実施。日々の指導につなげた。 ・いじめ防止月間(4月11月)ピンクシャツ運動を実施。 ・4月当初エビペン講習会及び健康面の情報交換会を実施。 ・行事前の保健衛生に関わる事前指導の実施。 ・メンタルヘルス講演会を1学年は6月、2学年・3学年は7月に実施。各学年、生徒が直面する悩みなどの解決や緩和に参考となったという意見が多かった(アンケート結果より)。 ・ユースカフェを1・2学期に実施。性別を問わず多数の生徒が参加。 ・11月～2月感染症対策強化月間運動を実施。各クラスの保健委員から教室の換気の呼びかけ。 ・学校説明会等の実施回数年3回(8月学校説明会、理数科体験講座、9月部活動見学会) ・生徒に関する事例検討会を9月末に実施。</p>	
<p>3 教職員 が働き甲斐 を実感する 学校</p>	<p>【成果指標】 ・問題行動による特別指導件数を一層減少</p> <p>○学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。</p> <p>【活動指標】 ・ホームページ・報道機関を通じて情報発信(更新履歴件数)年100件以上 ・生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催</p>	<p>【成果】 ・いじめ案件3件、今後も積極的な認知を必要とする。</p> <p>【活動】 ・ホームページ、Instagramを通じての情報発信回数83回(1/13現在) ・小中学校との連携について、人権サークル「ひゅうまんはあと」の生徒と大山田小学校6年生が人権交流会を行った。また、ギター・マ</p>	<p>◎ ※</p>

	<p>・小中校との連携、地域イベントへの協力</p> <p>【成果指標】 ・令和8年後期選抜学際探究科・理数科合計入学志願倍率 1.1 倍以上</p>	<p>ンドリン部、吹奏楽部が地域のイベントに参加し、演奏を行った。 (主なイベント)伊賀市「いきいき未来いが」、JA いがふるさと「とれたて市ひざっこ 10 周年」、安永「ファミリーイベント 2025」、上野ガス「七夕コンサート」等</p> <p>【成果】 ・最終倍率 1.09 倍 (前期:学際探究科 3.94 倍、理数科 1.95 倍)</p>	
	<p>○過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。</p> <p>【活動指標】 ・定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合 70%以上 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 90%以上 ・部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 100%</p> <p>【成果指標】 ・月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働の人数 0 人 ・1人当たりの月平均時間外労働 25 時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比 1.1 日増加(目標値 13.0 日)</p>	<p>【活動】 定時退校自体が難しい職場ではあるものの、意図的に声掛けをしながら推進している。 83% ・会議については、極力60分以内に終わる努力をしている。 67% ・すべての部活動で設定している。 100% ・長期休業中の部活動実施計画調査を実施。</p> <p>【成果】 ・76 人 ・11 人 ・24.1 時間 ・9.9 日</p>	<p>◎ ※</p>
改善課題			
<p>○人権教育については、人権LHRやささまざまな機会をとおして「教師がみずから語り掛ける」ことに取り組んだ結果、生徒の重要度満足度アンケートの評価は高く、今後も、生徒と教師の関係を丁寧に紡ぐ言葉がけの意識化に取り組んでいきたい。</p> <p>○昨年度に続き文化祭を本校保護者に加え、中学 3 年生とその保護者にも公開した。今後も保護者や中学生、地域の方の参加など、オープンな学校として中学生や地域へPRし続ける必要がある。</p> <p>○学校情報の発信にあたっては、公式 Instagram やきずなネット等を活用し、迅速な情報提供に努めた。今後は、ホームページの閲覧性を向上させるなど、引き続き多様な媒体を通じた広報活動を推進していきたい。</p> <p>○過重労働緩和・総勤務時間縮減については、定時退校日の退校状況や会議時間の短縮等に一定の改善が見られたものの、依然として課題は多い。次年度は、管理職による意識啓発を徹底するとともに、部活動顧問間の業務分担やローテーション化を推進し、特定職員への負担偏重を解消することで、時間外勤務の縮減に努めたい。</p>			

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○多くの授業で高い満足度を得た一方で、一部に目標未達の課題が残った。生徒の主体的な学びと自己肯定感を高めるため、組織的な研修を通じて、継続的に教員の授業力向上と改善を推進してほしい。</p> <p>○本年度は新学科設立などにより、探究活動の方向性が明確になった。「信州探究ツアー」をはじめとする、探究学習の指導がより充実することを期待したい。</p> <p>○「学びのクロス」や「イキイキ塾」、「放課後カフェトーク」などの教科の枠を超えた多様な取り組みに、教員が積極的に関わっている点は高く評価できる。生徒の視野を広げる大変有意義な活動であるため、今後も継続して実践してほしい。</p> <p>○教職員の過重労働改善は容易ではないが、引き続き継続的な取り組みを期待したい。</p>
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○研修などを通じて学校全体の授業力向上と継続的な改善に努めるとともに、日々の授業では生徒の主体的な活動時間の確保を重視し、教員が学習を支援する授業を展開する。</p> <p>○探究活動の指導體制の充実として、ゼミ制の導入推進や今年度の実践を踏まえ、体系的で効果的な指導體制を構築する。</p> <p>○進路指導體制を強化するため、情報交換会や研修へ積極的に参加するとともに、外部講師の招へいや教員間での知見共有を図り、質の高い情報提供体制を構築する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○学際探究科と理数科への体制移行に伴い、第2期SSH事業と連携した探究学習や課題研究をカリキュラムの柱に据える。それぞれの学科の特色を生かし、地域に根差した探究活動から、国際交流や高度な研究活動まで幅広い教育を展開する。</p> <p>○教職員の働き方改革を推進するため、報告や協議内容の精選を行い、会議時間の削減など業務改善に努める。</p>